

令和5年度事業報告

(1)会議の開催

ア 必要に応じて、理事会および各委員会、関係機関等の会議等を開催する。

イ ガバナンス・コンプライアンス・広報マーケティング研修を実施する。

(2)事業部

●国内大会委員会

(主) 伊藤 博之 (副) 山本 道雄

委員 富岡 成一 藤岡 明美 宮林 浩 白石 三重子

・大会の開催

ア 2024 年全日本卓球選手権大会(一般の部)第1回予選会(肢体の部)

日程 令和5年6月3日(土)

場所 パラアリーナ(東京都)

参加者およびその人数

シングルス 男子34名 女子10名 計44名 参加

男子シングルス 岩渕 幸洋 選手

女子シングルス 中村 望 選手

【報告】

今年度より、初めて予選会を開催した。北海道から九州まで全国から選手が参加した。

2025年1月に行われた本戦には、「男子シングルス岩渕幸洋選手」「女子シングルス中村望選手」が出場し、熱戦を繰り広げた。

イ 第2回ダブルス卓球交流大会

日程 令和5年9月23日(祝・土)

場所 パラアリーナ(東京都)

参加者及びその人数

立位男子ダブルス A・B 8組(16名)

車いす男子ダブルス A・B 11組(22名)

立位女子ダブルス 2組(4名)

車いす女子ダブルス 2組(4名)

【報告】

昨年度に続き、交流大会を開催した。悪天候にもかかわらず、遠くからの参加もあった。

今年度より、健常者の参加も可能に変更し種目も増やした。(障がい者と健常者でペアを組む)白熱した試合を繰り広げた。

ウ Pia presents 第15回全日本パラ卓球選手権大会(肢体の部)

日 程 令和5年11月25日(土)～11月26日(日)

場 所 東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3 アリーナ(東京都)

参加者およびその人数

車いす男子シングルス	56名		
車いす女子シングルス	29名	計85名	
立位男子シングルス	88名		
立位女子シングルス	32名	計120名	<u>総合計 205名</u>
車いす男子ダブルス	21組		
車いす女子ダブルス	8組		
車いす混合ダブルス	4組	計33組	
立位男子ダブルス	19組		
立位女子ダブルス	7組		
混合ダブルス	6組	計32組	<u>総合計 65組</u>

【報告】

2024年度代表選手選考も兼ねた大事な大会でもあるため、白熱した試合が随所にあり、選手の意気込みと熱意を感じられた。

昨年度実施した混合ダブルスについては、遅れが生じる可能性があったため実施しなかった。予定のタイムテーブルより、遅れが生じ、参加選手および関係者の皆様に、ご迷惑をおかけする結果となった。アンケート内容を確認し改善策を検討する。

エ 第44回全日本オープンパラ卓球選手権大会(肢体の部)

※大会名変更

日 程 令和6年3月16日(土)～17日(日)

場 所 神戸市立中央体育館 (兵庫県)

参加者およびその人数

車いす男子シングルス	54名		
車いす女子シングルス	29名	計83名	
立位男子シングルス	96名		
立位女子シングルス	39名	計135名	<u>総合計 218名</u>
車いす混合団体	19チーム		
立位男子団体	12チーム		
立位女子団体	5チーム		
立位混合団体	4チーム		<u>総合計 40チーム</u>

【報告】

今大会より、個人戦は年代別(50歳以上)、団体戦は立位(混成)を新設した。今後もアンケート等を実施し、会員の皆様の声を反映できるよう検討していく。

オ 組合せ

申込締め切り後に、確認作業・組合せを行った。

組合せ、タイムテーブルについては、開催約 40 日前に HP へ掲載

※自宅作業・パラサポでの作業を行う。

●普及委員会

(主) 白石 三重子 (副) 藤岡 明美

委員 富岡 成一 山本 道雄 宮林 浩 伊藤 博之

・普及啓発活動の実施

・各県の障がい者(パラ)スポーツ協会、行政等関係団体と連携し、依頼があった事業については、積極的に協力をを行う。

・普及イベントの開催については、初めてパラスポーツに触れる人たちが、よりライトに取り組めるようパラ卓球の医科学サポートチームや強化部も合流し、スポーツの体験などを日本代表・元日本代表が丁寧にサポートを行う。

・J-STAR 事業、全国障害者スポーツ大会等の協力

ア パラスポーツ・スタートアップサポートプロジェクト in CHITOSE

日 程 令和 5 年 8 月 12 日(土)

場 所 千歳市スポーツセンター(北海道)

参加人数 46 名

【報告】

千歳市、千歳市スポーツ指導員、千歳卓球協会、協力の下、事業を実施。重度の四肢麻痺の方、脳血管障害の方や知的障がいの方など札幌・苫小牧・留萌と遠方からも多数参加された。障がいのない参加者も多く、障がいのあるなしに関係なく一緒にラリーやゲームを楽しむことができた。障がいのない方には、車いす乗って卓球する体験してもらい、「車いすの選手は凄いと思った」などの感想があった。

パラ卓球に興味があるという家族も参加し、代表選手との交流や監督との会話の中で「初めてみたいと思う」とうれしい言葉いただいた。

イ パラスポーツ・スタートアップサポートプロジェクト in TOTTORI

【報告】

自治体との調整(施設の調整等)と交際大会との調整ができず中止

ウ パラスポーツ・スタートアップサポートプロジェクト in KUMAMOTO

日 程 令和 5 年 12 月 9 日(土)

場 所 八代トヨオカ地建アリーナ 小アリーナ

参加人数 52 名

【報告】

熊本県身体障害者卓球協会、八代市卓球協会、熊本県障害者スポーツ・文化協会、八代市スポーツ協会、八代市、多くの皆様の協力の下、事業を実施。車いすの方や知的障がいの

方など遠方からも多数参加された。障がいのない参加者も多く、障がいのあるなしに関係なく一緒にラリーやゲームを楽しむことができた。障がいのない方には、車いす乗って卓球する体験してもらい、「車いすの選手の真似はできない！すごい！」などの感想があった。障がいを持ち卓球を始めたばかりの中学生も参加し、代表選手や監督と交流し「練習を頑張る」とうれしい言葉いただいた。多くの小学生・中学生も参加し、代表選手と大盛り上がりで交流することができた。引き続き、この事業を実施し、障がいのある人とない人の垣根を、卓球を通じてなくすこと、そしてパラ卓球のファン(応援者)を増やしていきたい。

エ パラスポーツ・スタートアップサポートプロジェクト in HIRADO

【報告】

自治体との調整(施設の調整等)と交際大会との調整ができず中止

※体験会・講習会を実施

・第3回渋谷区長杯

日 程 令和6年2月4日(日)

場 所 渋谷区スポーツセンター

参加人数 車いす選手 8名 立位選手 7名 計 15名

・パラ卓球を知ろう in SHIBUYA

日 程 令和6年3月10日(日)

場 所 渋谷区スポーツセンター

参加者 18名

【報告】

目標の参加人数には達しなかったが、パラ卓球の理解を深めることができた。

今後の大会やイベント等でのボランティア活動参加への理解も深まった。中学生と交流も良い経験となった。

オ J-STAR6 期・7 期事業の実施

【報告】

・6 期検証プログラム事業

パラアリーナ合宿・北海道合宿・オンラインミーティング・ジャパンパラオープン2024見学・全日本パラ卓球選手権大会出場し、検証を実施した。医科学による専門基礎測を実施した。

・7 期検証プログラム事業

6 期生と合同で、パラアリーナ合宿を実施し、医科学による専門基礎測定を実施した。

●広報・マーケティング委員会

(主) 龍 信之助 (副) 坂井 一也

委員 立石イオタ良二

・渉外活動の推進

広報担当 新藤 遼介 丸山 裕理

※ 別紙参照 報告・提案資料 2

●ガバナンス担当

石堂典秀 高松政裕 宮林浩

【報告】

ガバナンスコード適合性審査について、弁護士、大学教授等の専門家と連携し、経営基盤の安定に向け検討するとともに、規程等の整備を行った。定期的にミーティングを実施し、ガバナンス研修にも積極的に参加した。共通理解と共通意識を持って協会運営に取り組むことが出来た。

(3)強化部

●強化委員会

(主) 宮崎 義仁 (副)坂井 一也

委員 羽生 綾子 森蘭 美咲 山本 恒安 森田 匡則 (※事務局時耕)

ア 強化委員会の体制

ハイパフォーマンスディレクター(強化責任者)	宮崎 義仁
ナショナルチームヘッドコーチ	羽生 綾子
ナショナルチームコーチ(立位監督)	森蘭 美咲
ナショナルチームコーチ(車いす監督)	山本 恒安
情報・科学スタッフ(強化担当)	森田 匡則
チームドクター	大野 洋平
パラスポーツトレーナー	池田 竜士
ナショナルパーソナルコーチ	新井 卓将 伊藤 誠 時吉 佑一
	村上 祥 木原 博生

※その他スタッフの追加の可能性あり。

今後継続的に検討を進めていく。

イ 強化合宿の開催・国際大会派遣

※ 別紙参照 提案資料 2

●選考委員会

(主) 石堂 典秀 (副) 大野 洋平

委員 富岡 成一 藤岡 明美 羽生 綾子

【報告】

適宜、委員会を開催し、海外派遣選手およびスタッフ等の選考、規程・基準の協議・検討等を行い、共通理解と共通意識を持って取り組むことが出来た。

●医科学・クラス分け・アンチドーピング委員会

(主) 大野 洋平 (副) 小黒 修

委員 大木 麻美 池田 竜士 木ノ瀬 翔太 木勢 峰之
山田 哲也 平賀 聡哉

ア 一般会員対象の事業

- ・国内クラス分け: 継続して行う。スタッフのクラス分けについての教育活動を行う(国際クラス分けセミナーへの参加支援を含む)。
- ・トレーニング指導: 障害特性に応じたトレーニングやセルフケアの指導を行う。

【報告】

・クラス分け

令和5年7月8~9日に、16名の選手に対してクラス分けを実施

第15回全日本パラ卓球選手権大会に際し、13名の選手に対してクラス分けを実施

第44全日本オープンパラ卓球選手権大会に際し、20名の選手に対してクラス分けを実施

・トレーニング指導

J-STAR 合宿、普及啓発イベント(北海道・渋谷区)にて、フィジカルトレーニング講習を実施

・大会救護およびJ-STAR 専門基礎測定会の実施

イ 海外派遣選手およびスタッフ対象の事業

- ・健康管理: メディカルチェック、個別指導、合宿などでの講義、必要に応じ専門科への受診などを促す。
- ・トレーニング指導: 障害特性に応じたトレーニングやセルフケアの指導を行う。
- ・アンチドーピング: 講義などの教育活動、個別相談、TUE申請、RTPA対象選手のサポートなどを行う。
- ・国際クラス分け: 強化スタッフへ選手の障害特性やクラス分けについて講義・解説を行う。海外派遣選手およびスタッフへ国際クラス分け対象選手のサポート(診断書作成、クラス分けの陪席など)を行う。

【報告】

・健康管理

海外派遣選手を対象にメディカルチェックを実施

令和6年1月に海外派遣選手対象に講義を実施

・トレーニング指導

リモートフィジカルトレーニング講習会を実施

令和 5 年 4 月の N T 合宿時に参加選手の身体機能評価を行った。

令和 6 年 1 月の N T 合宿に帯同し個別対応を行った。

・アンチドーピング

令和 5 年 8 月、JADA 講師から海外派遣選手対象に講義を行った。

令和 6 年 1 月に海外派遣選手対象に講義を行った。

適宜個別相談への対応を行った。

・国際クラス分け

令和 5 年 7 月の台北オープンで国際クラス分けを受けた来田綾選手のサポートを行った。

・大会救護:

令和 5 年 8 月 30 日～9 月 2 日、ITTF Japan Para Open 2023 にて大会救護を行った。

・練習用車いすの購入

練習用車いすを3台購入した(クラス 2-3 用、クラス 4-5 用、小学 4-6 年生用)

ウ 学会発表支援・資格取得支援

・他競技からパラスポーツにおける医科学に関する知識を吸収し、肢体不自由卓球についての学術的知見を報告するため、日本障がい者スポーツ学会等に参加し可能な限り発表を行う。

・パラスポーツトレーナー、パラスポーツコーチ、国際クラシファイアなどの資格取得の支援を行う。

【報告】

令和 5 年 11 月、第 32 回日本パラスポーツ学会において演題発表を行った。

(筆頭演者:木ノ瀬)

令和 6 年 1 月、第 10 回日本スポーツ理学療法学会において演題発表を行った。

(筆頭演者:池田)

※取材・メディア対応

卓球王国 2023 年 9 月号にクラス分けについて取材記事が掲載された。

(4) コンプライアンス委員会

(主) 高松 政裕 (副) 中川 義宏

委員 白石 三重子 石堂 典秀 神尾 洋

【報告】

次年度以降の体制等について協議・検討を行い、相談等の対応、調査を行った。

(5) アスリート委員会

【報告】

令和 5 年設置予定であったが、準備不足のため設置することができなかった。令和 6 年度中に設置に向けて検討する。

(他)

課題解決型アスリート育成パスウェイ構築支援プログラム事業

【報告】

令和 5・6 年度の 2 年事業で、地方公共団体と連携した育成環境の整備を実施。今年度は、以下4つの自治体へ依頼書を発行し、各市長より承諾書を受領してスタートした。

<連携地域と承諾書受領日>

- * 千葉県旭市 : 令和 5 年 8 月 28 日
- * 福岡県北九州市 : 令和 5 年 10 月 30 日
- * 大分県杵築市 : 令和 6 年 1 月 16 日
- * 新潟県新発田市 : 令和 6 年 1 月 24 日

連携にあたっては、各市役所のスポーツ関連・福祉関連等の複数部門をはじめ、県や市の卓球協会や障がい者スポーツの関係者など、各地の状況に応じた幅広い体制のもとで進めている。

具体的には、各自治体の実情を確認しながら以下のようなハード・ソフト両面で準備を進め、初回の活動では NT 選手をゲストにオープニングイベント(体験会)を実施した。各地 40~50 名ほどの参加があり、障がいの有無や年齢、卓球経験の有無にかかわらず、各自のペースで楽しんだり、車イス卓球を体験したりしながら、「卓球をやってみたかった」「NT 選手とのラリーが楽しかった」「NT 選手の動きや技を直接見て、見方が変わった」など、さまざまな感想が寄せられた。

<整備内容>

- 定期練習場所の確保 ■ 地域指導者の確保(各地 2~3 名)
- 備品貸出 : ユニバーサル卓球台・競技用車イス・卓球マシン・ラケット・ボール 等
- 視聴覚ツールの配布 : 指導用教材(立位・車イス)、選手のマインド醸成用教材

2 回目以降は各地で月 1~2 回の定期練習を継続しており、定期練習としての効果を当事者それぞれが感じている様子も報告されている(以下一例)

- * 定期的にコーチに教えてもらい、自分でもわかるくらい上達している【選手】
- * もっと練習して上達したい【選手】
- * 選手の意欲が高まっているのを感じる【指導者】
- * 指導者としてのスキルを磨いていきたい【指導者】